

目標: 神さまが喜ばれる祈りを考える。  
 聖句: 「あなたがたに言うておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。 ルカ福音書18:14」  
 時間: 10分  
 道具: ホワイトボード、ペン、祈禱カード  
 対象者: 小6×1 小5×1 小4×1 小3×1 小3×3 小1×2 未就園児×5  
 留意点: 子供たちは、胸をたたくという行為を見たり経験することは稀だと考えられる。行為のエッセンスを事前に教師側がよく咀嚼しておくことが重要である。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	<p>皆は、どのような祈りが聴かれる祈りだと思いませんか。          イエス様はこのようなたとえ話をされました。          パリサイ人が、立って、心の中でお祈りした。          悪いことをしていないことを感謝します。          善行をきちんと行って、取税人のようではない。          取税人は遠く離れて立って、お祈りした。          深く悔いる姿(胸をたたく)で、          罪人の私を憐れむよう懇願した。          イエス様はこの二人を、こうっています。          14節前半朗読)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神様の御心に適った祈り</li> <li>・分からない</li> </ul>	<p>聴かれない祈りがあるという表現には触れない。          子供たちに祈りの内容を考えさせる問い。          図に表しながら述べていくと比較しやすい。          立って祈ることは、子供たちには重要な点ではないので、触れるだけにする。          悪行をしていないこと、善行をしていることは神のみ旨に適うことである点を印象付けたい。          立ち位置が遠いことは印象付けたい。          主に助けを求めている姿を印象付けたい。</p>
課題探究	6分	<p>イエス様はなぜ取税人の祈りの方を義と認められたと言われたのでしょうか。</p> <p>イエス様がこの譬えを話されたのは、          自分を正しいと思って、他の人を見下す(9節)に対して、自分を高くする者は低くされて、自分を低くする人は神様が高くして下さる(14節)ことを伝えるためでした。          このパリサイ人は、どのような祈りをしたらよかったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神様に謝ったから</li> <li>・パリサイ人は偉そうだから</li> <li>・取税人と比べているから</li> <li>・取税人は自分の罪を自覚しているから</li> </ul>	<p>趣旨がつかんであれば、一言一句同じである必要はない。          パリサイ人の行い自体は素晴らしいことを用いて、多様な意見を挙げさせたい。          意見を挙げさせることが目的で、正解を求める必要はない。          挙げさせていく中で、自分がすべき祈りを考えさせたい。          まとめの文言になる。</p>
まとめ	2分	<p>抛りイエス様が喜んで下さる祈りを、心がけていきましょう。          暗誦聖句</p>		<p>発問だけで、挙げさせなくてよいだろう。          この後も心に残る問いかけとして響かせられればと思う。</p> <p>182号テキスト全体のテーマからの反映として、この事柄を信じて取り組ませたい。</p>